

大学

アーカイヴズ

全国大学史資料協議会東日本部会会報

1998. 10. 8 No.19

Eastern Japan Section, Association of
College and University Archives of Japan

1998年3月26日(木) 研究部会

大学史編集所から大学史資料センターへ

早稲田大学大学史資料センター 嘱託・研究調査員 松本 康 正

1997年9月、『早稲田大学百年史』全8巻(ほかに資料集『東京専門学校校則・学科配当資料』1巻)の刊行が完了した。これに伴い1998年6月、大学史編集所は大学史資料センターと名称を改め、新境地を拓くことになった。

早稲田大学の歴史的資料を収集するため、校史資料係が図書館内に設けられたのは1961年である。これは1963年に教務部所管の校史資料室となり、資料の収集と管理、大隈重信の事蹟に関する資料の収集と研究および研究成果の発表が、2大業務となった。1965年には総長室に移され、大学史の編纂が業務に追加されて『早稲田大学史記要』を発刊した。そして1970年、大学史編集所が誕生し、創立100年目の1982年完了を目標とする百年史の編纂・刊行と、大学史および大隈重信に関する資料の収集、調査、研究およびその成果の発表と、レファレンス・サービスとを担当する独立の付属機関となった。顧みれば、編集所の名称をもつことにより、百年史編纂が当機関の主たる業務であって、それ以外は付随的な業務との認識が、大学関係者のあいだで定着したのであった。

さて、百年史は、自画自讃の社史的なものでなく、美醜ひっくり返して早稲田大学のあり方を見直すことをめざし、学術論文調ではなく、読みやすさを心がけるという編集方針がたてられた。そして、全4巻を予定した通史編においては、まず稿本を刊行し、これに手を加えて定本を刊行することとなった。しかし、1972年に始まった稿本の刊行は完結までに22年を費やし、分量も増えたので、1978年

に刊行を開始した定本通史編は1巻が追加されて全5巻となり、さらに利用の便を考慮して総索引・年表編が1巻加えられた。

完成が遅れたのは、戦争犠牲者名簿や、担当科目と就・退任年月日がわかる教員名簿のように、テーマによっては、先行する調査・研究がなかったために、資料やデータを集めるのに時間を要したこと、執筆者が多数にのぼったので、文体を修正したり、同じ事実でも記述内容や評価が喰い違う箇所をチェックしたりするのに時間を要したこと、なかんずく、百年史編纂だけでなく、集めた膨大な資料を整理するかたわら、『小野梓全集』『小野梓の研究』『大隈重信とその時代』などの執筆・編纂・刊行もおこない、待ったなしのレファレンス・サービスに応じ、ほとんど毎年、大学史展を開催するという、多忙な日常業務に追われたことなどが、おもな原因である。

ともあれ、予定を15年も超過した百年史刊行の完了を目前にして、大学史編集所の改組が組上にのぼった。最初の具体的動きは、1996年7月、理事会の主導により博物館開設委員会が設置されたことである。外国をも含めた多くの大学で、博物館をそなえて学術研究の源泉を公開するのは一般的な趨勢となっていたが、この潮流を背景に、会津八一記念東洋美術陳列室、大学史編集所、考古学研究室、図書館非図書資料(絵画など)を統合して、1998年度に「会津八一記念博物館」を開設しようというのである。

これに対して、1997年2月、文学部史学科日本史学専修の専任教員9名から総長に、収

集文書を整理し管理し研究するため、専門家（アーキヴィスト）をも養成できるような「文書館」に改組してほしいとの要望書が提出された。ついで3月、文学部史学会評議会（西洋史学、東洋史学、日本史学、考古学4専修各2名の代表教員よりなる）から総長に、大学資料の収集・整理・管理・公開だけでなく、アーキヴィストを養成すると同時に、世界史的規模で大学史の共同研究をおこなう場として、博物館とは別個の組織にしてほしいとの要望書が出された。加えて5月には、大学史編集所の今後についての懇談会（政治経済学部、教育学部、文学部の有志教員5名）から総長に、資料を正しく扱うことができ問い合わせにに対応できる専門的な知識をそなえた研究者を養成するとともに、国際的視点から大学の歴史や現今の大学問題を研究する機関に改組してほしいという要望書が提出された。

このような動向と並行しつつ、1997年2月と5月に開かれた大学史編集所の運営委員会は、大学史編集所が収集し管理すべき資料の性質と分量を勘案し、早稲田大学の歴史的特徴を世に訴えることの重要性を認識し、かつ将来の大学のあり方を研究する機能を強化する必要性を考慮して、図書館や博物館と密接な協力関係を保ちつつも、博物館構想には当面は加わりないと決定し、これを前提に、今後のあり方を検討するための小委員会（13名よりなる検討懇談会）を設けた。検討懇談会は12月まで5回開催され、規約案を含む答申書を編集所長に提出した。1998年2月の運営委員会はこれを協議した結果、「本大学の歴史、創設者大隈重信ほか関係者の事蹟を明らかにし、これを将来に伝承するとともに、比較大学史研究を通じて、本大学の発展に資することを目的とする」「文書館」への改組構想をまとめ、規約案を添えて総長に提出した。

これを承けた理事会は5月、新名称を「大学史資料センター」と改めたほかは、規約案とほぼ同じ内容の「大学史資料センター規程」を制定し、6月1日付で施行した。新しい業務内容は、「(1)資料の収集、整理および保存。(2)資料の調査、研究およびその成果の発表。(3)講演会、公開講座、シンポジウム等の開催。(4)資料の公開およびレファレンスサービス」と定められた。すなわち、大学の資料を調査し、収集し、整理し、保存するとともに、これらの資料を研究者に公開する文書館である



松本康正氏の講演

と同時に、大学の歴史を研究する機関として位置づけられたのである。ここでいう研究とは共同研究の場を提供することであり、本年度より、大学から嘱任された約30名の研究調査員が、大学史研究部門（早稲田大学の学術史・教育史）、大隈重信研究部門（高田早苗研究）、比較大学史研究部門（早稲田大学と内外諸大学との比較研究）の3分野で研究プロジェクトを進めることになっている。

現在、事務所・書庫・倉庫の合計床面積337㎡に、書籍・雑誌1万5000冊、文書1万5000点、写真1万枚、博物資料300点、録音・録画テープ200巻ほどが保管されている。このうち明治期より昭和30年頃までの教務関係の文書および文部省との往復文書は、1枚1枚裏打ちし、細目をデータベース化したのち、マイクロフィルム化と原資料の厳重保存をおこなっている。この作業は1988年度より毎年約250万円の費用で継続し、100点の簿冊について補修とマイクロフィルム化を進めた。これ以外の未整理の資料（今後、各箇所から移管される非現用文書を含む）は、出処ごとに文書保存箱に収め、資料を1点ずつ保存封筒に入れ、封筒とカードに資料名と倉庫棚番号と箱番号を記入するという方法をとっている。このカードは、検索を容易にするためデータベース化する予定である。他方、明治期より昭和初期までの約1800枚の原版写真は帙に保存し、被写体と撮影年月を調査したのち、目録をつくとともに、写真の特性に鑑みデジタル化を実験中である。整理済みの資料は、大学が定めた「個人情報の保護に関する規則」に抵触しない範囲で公開している。

会津八一記念博物館が2号館のなかに開館した5月、同じ2号館に所在する大隈記念室が、大学史の常設展示場としてオープンした。これから制作するホームページとならんで、早稲田大学の歩みを目で見て理解してもらうための施設として大いに活用したい。

1998年7月2日(木) 研究部会

明治期刊行図書フィルム化 プロジェクト その後

富士写真フイルム(株) 情報システム部主査 野 中 治

平成元年に実施した国立国会図書館所蔵「明治期刊行図書」をマイクロフィルム化した内容について報告いたします。下記の3点について話を進めます。

1. 利用と保存のためのマイクロ化
2. 現在のメディア変換における留意点
3. 最近のカラー原本のデジタル化の方法

1. 利用と保存のためのマイクロ化

10年程前になりますが、当時図書館に保管されている原本が、酸性紙の影響で劣化するという現象が起きていました。その救済策として紙そのものを脱酸処理をする方法が考えられましたが、費用がかさむこと、方法論としてベストか疑問との声もあり、決定的な救済策とはなりえなかった。そのため後世へ情報を伝達するため、メディア変換としてマイクロフィルム化が検討された。



報告する野中 治氏

▶なぜマイクロフィルムが当時メディア変換の手段として選ばれたのか。

- ①正確性—忠実な記録、写真技術
- ②保存性—歴史的な信頼性

③拡張性—容易な検索性、他のメディアへの変換可能

④互換性—国際規格があり世界共通

▶作業規模やいかに。

16万冊、3500万頁、作業期間は20ヶ月間、作業は国会図書館書庫内、作業人員は150名、カメラ31台、1750万駒の撮影駒数、約16000本の完成フィルム フィルムは16mm ロールマイクロフィルムを使用。

▶作業時の留意事項は。

- ①図書の保全に万全を期す—貴重な原本なので慎重な取扱い
- ②作業中の閲覧対応—作業現場における図書の所在を把握、閲覧対応
- ③各作業の工程管理—スムーズな作業の流れ
- ④作業マニュアル—均一な品質維持
- ⑤マイクロ化の前作業万全—高画質な品質
- ⑥信頼性の高い機材使用—最新の機材を使用
- ⑦フィルムの長期保存対策—フィルムにAGガード処理
- ⑧快適な作業環境作り—良い職場環境、良い品質

▶組織体制は。

国会図書館の図書保存及び後のマイクロフィッシュフィルムによる閲覧対応。

丸善株式会社のマイクロフィルム出版。富士写真フイルムの技術駆使という3者の協力によるプロジェクト体制、

▶マイクロ化の作業工程は。

- ①図書の抽出—書庫より図書目録順に抽出
- ②図書の選別—破損状況、大型本、極厚本、極小本等の確認
- ③マイクロ化の前準備—目録との照合、頁数、劣化状況等の確認
- ④フィルムリール編集—図書の1リール収納数量を確認
- ⑤マイクロ撮影—マイクロカメラによる撮影
- ⑥フィルム現像—館外にてフィルム現像、AGガード処理も同時に実施
- ⑦フィルム検査—1駒づつ拡大・投影して確認
- ⑧図書の格納—撮影OKであれば図書を書庫に戻す

▶作業に使用した小物類は。

- ・図書カード—図書を抽出した書庫におく、図書の表紙と一緒に撮影等のカード
- ・パソコン—図書の作業場所での所在管理、工程管理にも利用
- ・間紙—和書の撮影時の裏写り防止用
- ・中性紙箱—解体して撮影した場合の図書の一時保管用、後に修復
- ・折りコン—撮影前の1リール毎の図書を収納
- ・ブックホルダー—撮影時図書にストレスを与えないために使用
- ・和紙のひも—くずれそうな和書は撮影後ひもでとめる

▶マイクロ化によるメリットは。

- ・原本保全—閲覧時原本を扱わず、フィルムにて対応できる
- ・原本修復—劣化している原本を確認し、修復できる
- ・図書目録—原本を1点づつ確認するので、目録内容の訂正ができる
- ・フィルム出版—広く利用ができる

2. 現在のメディア変換における留意点

10年前とはメディア変換の手段が多様化してきたことです。パソコンの普及により資料を電子メディア化し、利用するケースが増加しています。直接的に電子メディアに人力し利用できる資料もありますが、品質を重視する場合は、今現在もまずフィルムに入力後スキャンニングし電子メディア化する方法が良いと思われます。しかし、これにより新たな問題も発生しています。問題点は下記の内容になります。

- ①著作権処理
- ②電子メディアの種類—どのメディアが将来的にも有効か
- ③検索ソフト—将来的にも使用できるかどうか
- ④二次使用権—画像を変えて使うケースがある



最新の機器の説明を受ける

3. 最近のカラー原本のデジタル化の方法

最近ではカラー原本の電子メディア化のケースが増えている。高画質を望む場合は

- ①カラーマイクロ撮影—カラーマイクロフィルムで撮影し、デュープをとる
- ②スキャンニング—高性能のスキャナーを使用
- ③パソコンでの利用—検索ソフト、検索データをドッキング
- ④プリンター—ピクトログラフィーによるプリント
- ⑤インターネット—通信による利用

全国大学史資料協議会東日本部会会員名簿

(1998年6月10日現在)

会員校・担当部課室

愛知大学・愛知大学50年史編纂委員会

〒441-8522 豊橋市町畑町1-1

電話：0532-47-4138 FAX：0532-29-0089

学習院大学・学習院大学史料館

〒171-8588 豊島区目白1-5-1

電話：03-3986-0221(内6569)

FAX：03-5992-9219

神奈川大学・大学資料編纂室

〒221-8686 横浜市神奈川区六角橋3-27-1

電話：045-481-5661 FAX：045-491-7915

関東学院・学院史資料室

〒236-8501 横浜市金沢区六浦町4834-1

電話：045-786-7049 FAX：045-786-0787

慶應義塾大学・福澤研究センター

〒108-8345 港区三田2-15-45

電話・FAX：03-3453-0254

國學院大學・校史資料課

〒150-8440 渋谷区東4-10-28

電話：03-5466-0104 FAX：03-5485-0152

国際基督教大学・編年史室

〒181-8585 三鷹市大沢3-10-2

電話：0422-33-3057 FAX：0422-33-3634

国士舘大学・国士舘資料室

〒154-8586 世田谷区若林4-31-10

柴田会館4階

電話：03-5481-5340

実践女子大学・記念事業事務室

〒191-8510 日野市大坂上4-1-1

電話：042-585-0301 FAX：042-585-0327

上智大学・総合調整室別室

〒102-8554 千代田区紀尾井町7-1

電話：03-3238-3294 FAX：03-3238-3539

聖学院・本部理事長室

〒114-8574 北区中里3-12-2

電話：03-3917-8332 FAX：03-3940-3798

成蹊学園・総務部学園史料館事務室

〒180-8633 武蔵野市吉祥寺北町3-3-1

電話：0422-37-3517 FAX：0422-37-3868

専修大学・大学史資料室

〒101-8425 千代田区神田神保町3-8

電話：03-3265-5879 FAX：03-3265-5923

拓殖大学・創立百年史編纂室

創立百周年記念事業事務室

〒112-8585 文京区小日向3-4-14

電話：03-3947-7166(内1470)

FAX：03-3947-7265

玉川大学・教育博物館学園史料室

〒194-8610 町田市玉川学園6-1-1

電話・FAX：0427-39-8643

大乘淑徳学園・長谷川仏教文化研究所

〒174-8637 板橋区前野町5-24-8

電話：03-5392-8855 FAX：03-5392-8853

中央大学・大学史編纂課

〒192-0393 八王子市東中野742-1

電話：0426-74-2132 FAX：0426-74-2148

津田塾大学・企画広報課

〒187-8577 小平市津田町2-1-1

電話：042-342-5113 FAX：042-342-5121

東海大学・資料室

〒151-8677 渋谷区富ヶ谷2-28-4

電話：03-3467-2211 FAX：03-3485-4962

東京基督教大学・歴史資料保存委員会

〒270-1347 千葉県印旛郡印西町内野

3丁目301-5-1

電話：0476-46-1131 FAX：0476-46-1405

東京経済大学・百年史編纂室

〒185-8502 国分寺市南町1-7-34

電話：042-328-7955 FAX：042-328-5900

東京女子医科大学・史料室・吉岡彌生記念室

〒162-8666 新宿区河田町8-1

電話：03-3353-8111(内22213)

FAX：03-3353-8209

東京農業大学・図書館

〒156-8502 世田谷区桜ヶ丘1-1-1

電話：03-5477-2525 FAX：03-5477-2632

東北学院・広報室

〒980-8511 仙台市青葉区土樋1丁目3-1

電話：022-264-6423 FAX：022-264-6458

東洋大学・井上円了記念学術センター

〒112-8606 文京区白山5-28-20

電話：03-3945-7555 FAX：03-3945-7601

獨協学園・百年史編纂室

〒340-0042 草加市学園町1-1

電話：0489-42-1111 FAX：0489-42-6756

日本工業大学・総務課

〒345-8501 埼玉県南埼玉郡

宮代町学園台4-1

電話：0480-34-4111(代) FAX：0480-34-2941

日本女子大学・成瀬記念館

〒112-8681 文京区目白台2-8-1

電話：03-3942-6187 FAX：03-3942-6182

日本大学・大学史編纂室

〒102-0074 千代田区九段南4丁目8-24

電話：03-5275-8036 FAX：03-5275-8325

法政大学・総務部広報・広聴課

〒102-8160 千代田区富士見2-17-1

電話：03-3264-9365 FAX：03-3264-9639

宮城学院・資料室

〒981-8557 仙台市青葉区桜ヶ丘9-1-1

電話：022-279-1311(内250)

FAX：022-279-4707

武蔵学園・記念室

〒176-8533 練馬区豊玉上1-26-1

電話・FAX：03-5984-3748

武蔵野美術大学・大学史史料室

〒187-8505 小平市小川町1-736

電話：0423-42-6091 FAX：0423-42-5173

明治大学・総務部歴史編纂事務室

〒101-8301 千代田区神田駿河台1-1

電話：03-3296-4085 FAX：03-3296-4086

立教大学・図書館大学史資料室

〒171-8501 豊島区西池袋3-34-1

電話：03-3985-2693 FAX：03-3985-2819

立正大学・庶務部庶務課

〒141-8602 品川区大崎4-2-16

電話：03-3492-6616 FAX：03-5487-3344

早稲田大学・大学史資料センター

〒169-8050 新宿区西早稲田1-6-1

電話：03-5286-1814 FAX：03-5286-1815

全国大学史資料協議会東日本部会

1998年度総会議事録（抄）

日 時 1998年 5月14日(木) 15時～16時

会 場 東京ガーデンパレス 3階「華」

出席校 24大学 7個人会員

オブザーバー

三澤 純氏・小宮山道夫氏

（広島大学50年史編集室）

計45名

開会の挨拶 神奈川大学 澤木 武美氏

議長の選出

議 長 國學院大學 益井 邦夫氏

副議長 立教大学 池田 貞夫氏

議 事 1. 1997年度事業報告・同決算報告
について（承認）

2. 1998年度事業計画案・同予算案
について（承認）

3. 役員の改選について（承認）

部 会 長 神奈川大学

副部会長 東海大学

運営委員 慶應義塾大学

國學院大學

中央大学

武蔵野美術大学

明治大学

会計委員 学習院大学

実践女子大学

監査委員 東京農業大学

日本大学

4. その他（前東海大学資料室長

竹市知弘氏の顧問推薦

を承認した）

閉会の挨拶 中央大学 村松 良人氏

懇 親 会 16時30分～18時 出席者 42名

全国大学史資料協議会東日本部会

幹事会議事録（抄）

第12回 1998年 3月26日(木) 14時～15時

会 場 早稲田大学 1-206教室

出席校 神奈川大学 國學院大學 中央大学

東海大学 東京農業大学

武蔵野美術大学 明治大学

議 事 (1) 1998年度の部会運営・部会総会
について

(2) 会報発行・パンフレット作成・
記念誌編纂の件について

(3) その他

第13回 1998年 4月21日(火) 14時～16時

会 場 明治大学駿河台研究棟 4F 会議室

出席校 神奈川大学 慶應義塾大学

國學院大學 玉川大学 中央大学

東京農業大学 日本大学

武蔵野美術大学 明治大学

議 事 (1) 1998年度部会総会の準備について

(2) 記念誌編纂の件について

(3) その他

第14回 1998年 5月14日(木) 14時～15時

会 場 東京ガーデンパレス 3階「華」

- 出席校 神奈川大学 慶應義塾大学
 國學院大学 玉川大学 中央大学
 東海大学 東京農業大学 日本大学
 明治大学
 中野 実氏（東京大学史料室）
- 議 事 (1) 1998年度部会総会の準備について
 (2) その他
- 第15回 1998年7月2日(木) 14時～15時
 会 場 富士フイルム TECビル 6F
 Bセミナールーム
- 出席校 神奈川大学 慶應義塾大学
 國學院大学 玉川大学 中央大学
 東海大学 東京農業大学 日本大学
 明治大学
 中野 実氏（東京大学史料室）
 西口 忠氏（桃山学院）
 福井智佳子氏（関西大学）
- 議 事 (1) 1998年度の部会運営について
 (2) 記念誌編纂の件について
 (3) その他

全国大学史資料協議会東日本部会

研究部会記録（抄）

- 第10回 1998年3月26日(木) 15時～17時
 会 場 早稲田大学 1-206教室
 参加校 20大学 2個人会員 35名
 オブザーバー 3名
- 演 題 「大学史編集所から大学史資料センターへ」
- 講 師 松本 康正氏
 （早稲田大学大学史資料センター
 嘱託・研究調査員）
- ※研究部会の内容につきましては、本号に掲載した松本康正氏の報告をご参照ください。
- 第11回 1998年7月2日(木) 15時～17時50分
 会 場 富士フイルム TECビル 6F
 Bセミナールーム
- 参加校 16大学 3個人会員 30名
 オブザーバー 3名
- 演 題 「明治期刊行図書フィルム化
 プロジェクト その後」
- 講 師 野中 治氏
 （富士フイルム株
 情報システム部主査）
- ※研究部会の内容につきましては、本号に掲載した野中治氏の報告をご参照ください。

三二情報

このたび、明治大学大学史料委員会および同歴史編纂事務室から2つの冊子が刊行された。ひとつは、前者が中心となった『大学史紀要 紫紺の歷程』第2号である。本年は明治大学が留学生を迎えて100年という記念すべき年であり、また本学も今後ますます国際化が求められているため、特集として「国際交流百年」を組んだ。当然、大学史料館論、学生時代回顧録（原田大二郎）、プロ野球中上英雄伝など、多種多彩な内容である。もうひとつは後者が中心となった『歴史編纂事務室報告』第19集である。本号では「明治大学と校友(I)」というタイトルで、明治期の卒業生が地域にかえり設立した法律学校をとりあげた。大学が外国だけではなく、今一度国内（とくに地域・地方、そして校友）をふりかえるべきであるという趣旨から編集した史料論集である。

なお、両書とも明治大学歴史編纂事務室で取り扱っている（紀要は一冊800円、報告集は500円、送料は別途、詳しくは同室 ☎03-3296-4086）。

ご案内

全国大学史資料協議会及び同協議会東日本部会に関するお問い合わせ、入会申し込みは、下記へご連絡ください。

慶應義塾大学・福澤研究センター

〒108-8501 港区三田2-15-45

☎ 03-3453-0254

中央大学広報部大学史編纂課

〒192-0393 東京都八王子市東中野742-1

☎ 0426-74-2132

会報編集担当

神奈川大学大学資料編纂室

〒221-8686 横浜市神奈川区六角橋3-27-1

☎ 045-481-5661

東海大学資料室

〒151-8677 渋谷区富ヶ谷2-28-4

☎ 03-3467-2211

中野 実（東京大学大学史料室）

〒113-8654 文京区本郷7-3-1

☎ 03-3812-2111